

10|23月

9:00-17:00 11|10金

古典籍

のインターフェース



講演会「古典籍の分類と目録」

講師 人文社会系 谷口孝介教授

日時 10/27(金) 13:30-15:00

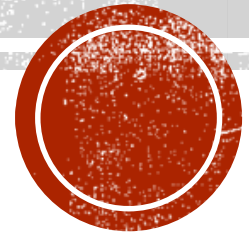
会場 中央図書館 本館 2階 集会室

令和五年度筑波大学附属図書館企画展

令和5年度 筑波大学附属図書館 企画展  
講演会

素人が語る

「古典籍の分類と目録」



人文社会系 谷口孝介

2023.10.27

主催 筑波大学附属図書館 入場無料 X (旧 Twitter) @tulips\_tenji

会場 筑波大学中央図書館貴重書展示室

お問い合わせ 筑波大学附属図書館 古典資料担当

TEL 029-853-2376 Email voice@tulips.tsukuba.ac.jp

企画展 オフィシャル

Web サイトはこちら▶



# 一、分類とは

中国人は実在の世界の現象的な多様性を多様性のままに認識するのを好んだ。むしろそれは、かれらが世界の体系的把握を断念したことを意味するのではない。二つの志向を統一するためにかれらがとった方法は分類であった。自然現象や社会制度から人間の感情・思想・行為にいたるまで、くまなく分類しつくそうと試みた。枚挙的な記述とその分類による世界の体系的把握である。

山田氏はこのように述べて、「項目別の具体的な記述をとおして」「類関係による世界の区分と体系化を文字どおり表現している「類書」」に注目し、その分類原理が史書、本草書、農書など他の分野の文献にも見える中国における「世界そのものの分類原理であった」と説く。

山田慶兒「中国の文化と思考様式」『山田慶兒著作集』2、臨川書店、2022年（初出1971年）

## 「類書」 『芸文類聚』

### 日本大百科全書（ニッポニカ）

中国、唐初の類書（一種の百科事典）。100巻。唐の李淵が624年（武徳7）に欧陽詢らに命じて、2、3年で完成したもの。現存の類書中では『北堂書鈔』に次いで最古で、構成と内容から後続した類書の模範とされた。その大綱は、天、歳時、地、州、郡、山、水、符命、帝王、后妃、儲宮、人、礼、楽、職官、封爵、治政、刑法、雑文、武、軍器、居処、産業、衣冠、儀飾、服飾、舟車、食物、雑器物、巧芸、方術、内典、靈異、火、薬香草、宝玉、百穀、果、木、鳥、獣、鱗介、虫豸、瑞祥、災異の45部とし、その下に1000余項を配する。各項は総叙で概説し、関係典拠を列挙し、関係詩文を付する。進士制度確立のため必読書とされ、類書も続出した。内容精確、また引用書が逸書となったため貴重である。宋の紹興10年（1140）版、明の嘉靖6年（1527）版、万暦15年（1587）版、上海中華書局版複製16冊（1959）がある。わが国には早く伝わり『日本国見在書目録』に載せられた。

[彌吉光長]

益人命

夏小正曰此日蓄採衆藥以蠲除毒氣

荆楚記曰荆楚人以五月五日並蹋百草採艾以爲人懸門戶上以禳毒氣又曰屈原以是日死於竝將舟楫以拯之今日競渡是其遺跡

大戴禮曰五月五日蓄蘭爲沐浴

楚辭曰浴蘭湯兮沐芳華

詩梁王筠五日望採拾詩曰長絲表良節金縷應嘉辰結蘆同楚客採艾異詩人折花競鮮彩拭露染芳津含嬌起斜眄歛笑動微嚬獻璫依洛浦懷佩似江濱

濱

七月七日

列仙傳曰陶安公者六安鑄冶師行火者朱雀止治土曰安公治與天通七月七日迎汝以赤龍事具仙部又曰王子喬見桓良曰告我家七月七日待我於緱氏山頭至時乘白鶴在山頭望之不得到舉手謝時人數日而去

漢書曰武帝七月七日生於漪蘭殿

漢武故事曰七月七日上於承華殿齋正中忽有一青鳥從西方來集殿前上問東方朔朔曰此西王母

『芸文類聚』卷4・  
歲時部中  
早稻田大學藏

卷第百六十一

卷第百六十二

卷第百六十三

卷第百六十四

卷第百六十五

卷第百六十六

卷第百六十七

卷第百六十八

卷第百六十九

卷第百七十

卷第百七十一

卷第百七十二

○下本指世五下

祥瑞部上

祥瑞部下

日月星雲雨露雪霜  
鳳凰鸞鶴烏鸞雀鳩  
鷓鴣山鷄  
鷓鴣

鷓鴣山鷄  
鷓鴣

鷓鴣山鷄  
鷓鴣

鷓鴣山鷄  
鷓鴣

鷓鴣山鷄  
鷓鴣

鷓鴣山鷄  
鷓鴣

鷓鴣山鷄  
鷓鴣

鷓鴣山鷄  
鷓鴣

鷓鴣山鷄  
鷓鴣

鷓鴣山鷄  
鷓鴣

鷓鴣山鷄  
鷓鴣

鷓鴣山鷄  
鷓鴣

鷓鴣山鷄  
鷓鴣

鷓鴣山鷄  
鷓鴣



地異部上  
地異部中  
地異部下

○  
△

類聚国史卷第一百六十五

祥瑞部上



日	露	鷹	雀	至鳥
月	雪 <small>賀附</small>	鷹	鳩	木寇
星	鷄	鷓鴣	鷓鴣	鷓鴣
雲	山鷄	烏	鴉	鳥
瓦	鴉	鷲	鴉	鴉

元正天皇養老五年二月癸巳日暈如白虹貫暉南北有珎

嵯峨天皇弘仁二年十二月己亥日柁戴

清和天皇貞觀九年十一月廿日己丑日上有

冠左右成珎色黃白 十五日 十月廿日辛

亥時加辰日重暈左右有珎其下雲氣如

龍 十七年正月廿一日己巳時日暈 廿

三日丁未冒時日暈而有珎 二月十七日辛

未日有冠纓宿奎

陽成天皇元慶七年七月廿六日庚寅申時日

右有珎上下有白雲日即宿翼 廿七日辛卯

7.10.15  
136351  
7.10.15  
7879/5500

37 『類聚国史』卷165・祥瑞部上 (尊經閣叢刊)

38 『倭名類聚抄』 2・  
親戚類第7・父母類第24

祖母

爾雅云父之妣為王母九族圖云祖母波孫炎曰人之尊祖若天土故王

父王母也

祖姑

爾雅云王父之姊妹為三姑於保

從祖父

爾雅云父之世父叔父為從祖父於保

外祖母

爾雅云母之考為外主母於保

外祖母

爾雅云母之妣為外主母於保

父母

孝經云身體髮膚受於父母於保

俗云父

知各母爾雅云父為

釋名云曰伯孫也  
公羊傳曰惠公者  
隱公之考也仲  
子者桓公母也  
明非死生之義  
稱矣揚氏漢語  
抄云阿嫗如年天和  
和名同上也

繼父母

世說云諸葛宏為繼母族黨所讒又

云王祥事後母甚謹後母即繼母也

謂母則可知父但繼父和名萬繼母

繼父母各謂其子古我不生義也

伯叔類第二十五

釋名云父之兄曰世父曰伯父曰世

釋名云曰伯孫也  
公羊傳曰惠公者  
隱公之考也仲  
子者桓公母也  
明非死生之義  
稱矣揚氏漢語  
抄云阿嫗如年天和  
和名同上也

『和漢朗詠集』卷上・春・  
立春、早春  
国会図書館蔵

池凍東頭風渡解意梅北面雪封卷  
 柳無氣力徐先動池有波文水畫開  
 今日不知誰計會春風春水一時來  
 夜向後更寒磬老春生高火曉燭殘  
 神しんひらひらくくひひととひひののここののははれれをを  
 春通

早春

冰清田北蘆雖短春入枝徐柳眼紅  
 先遣和風報消息續教啼鳥說來由  
 東岸西岸柳遲速不同南枝發



# 混沌の意味 分節と総合

## 『莊子』内篇・応帝王篇

南海之帝爲儵。北海之帝爲忽。中央之帝爲渾沌。儵與忽時相與於渾沌之地。渾沌待之甚善。儵與忽謀報渾沌之德曰、「人皆有七竅。以視聽食息。此獨無有」。嘗試鑿之。日鑿一竅。七日而渾沌死。

儵と忽とは、東の間の生命を渾沌の国—心知の概念的認識を超え、分別の価値的偏見を忘れた実在そのものの世界に歓喜した。

福永光司『莊子 内篇』（講談社学術文庫）講談社、2017年

## 二、本の分類と目録

『史記』 卷6・始皇本紀34年 焚書坑儒

丞相李斯曰、「（中略）臣請史官非秦記皆燒之。非博士官所職、天下敢藏詩・書・百家語者、悉詣守尉、雜燒之。有敢偶語詩書者弃市。以古非今者族。吏見知不舉者与同罪。令下三十日不燒、黥為城旦。所不去者、醫藥・卜筮・種樹之書。若欲有学法令、以吏為師」。制曰、「可」。

価値による分類 世の中に有害/有用な書

# 世界を分類して目録化する 中国文化の独自性

『枕草子』（三卷本）

〔六五〕集は 古万葉。古今。

〔二〇〇〕書は 文集。文選。新賦。史記。五帝本紀。願文。表。博士の申文。

# 目録の始まり 『漢書』 芸文志



入海迺無水災沛郡桓譚為司空掾典其議為歡豐言凡此數者必有一是宜詳考驗皆可豫見計定然後舉事費不過數億萬亦可言事諸浮食無產業民師古曰事謂役使也空居與行役同當衣食衣食官而為之作迺兩便師古曰言無產業之人端居無為及發行力役俱須衣食耳今縣官給其衣食而使修治河水是為公私兩便也可巨上繼再功下除民疾王莽時但崇空語無施行者

贊曰古人有言微禹之功吾其魚乎師古曰左氏傳載周大夫劉定公之辭也言無禹治水之功則天下之人皆為魚鼈耳中國川原巨百數莫著於四瀆而河為宗孔子曰多聞而志之知之次也師古曰論語稱孔子之言曰多聞擇其善者而從之國之利害故備論其事

漢書卷三十 藝文志第十

正議大夫行祕書少監琅邪縣開國子顏師古注

昔仲尼沒而微言絕李奇曰微不顯之言也七十子喪而大義乖師古曰七十子喪而大義乖故春秋分為五章昭曰謂左氏公羊穀梁鄭氏夾氏也詩分為四章昭曰謂毛氏齊魯韓易有數家之傳戰國從衡真偽分爭師古曰從衡謂從衡氏也諸子之言紛然競亂師古曰紛然競亂至秦患之乃燔滅文章以愚黔首師古曰燔滅也秦謂人為黔首言其頭如興改秦之敗大收篇籍廣開獻書之路迄孝武世書缺簡脫禮壞樂崩師古曰編絕散落故簡脫脫音吐活反聖上喟然而稱曰師古曰喟歎息之貌也音丘位反朕甚閔焉於是建藏書之策如淳曰劉歆七略曰外則有大常太史博士之藏內則有延閣廣內祕室之府置寫書之官下及諸子傳說皆充祕府至成帝時以書頗散亡使謁者陳農求遺書於天下詔光祿大夫劉向校經傳諸子詩賦步兵校尉任宏校兵書太史令尹咸校數術師古曰古卜之書侍醫李柱國校方技師古曰醫藥之書每一書已師古曰已畢也

32 『漢書』 卷30・ 芸文志  
前漢劉向『別錄』・  
劉歆『七略』に拠る

## 『漢書』藝文志·大序（班固）

昔仲尼沒而微言絕〈李奇曰、「隱微不顯之言也。」師古曰、「精微要妙之言耳。」〉、七十子喪而大義乖。故春秋分為五〈韋昭曰、「謂左氏·公羊·穀梁·鄒氏·夾氏也。」〉、詩分為四〈韋昭曰:「謂毛氏、齊、魯、韓。」〉、易有數家之傳。

戰國從衡、真偽分爭、諸子之言紛然殺亂。

至秦患之、乃燔滅文章、以愚黔首。

漢興、改秦之敗、大收篇籍、廣開獻書之路。迄孝武世、書缺簡脫、禮壞樂崩、聖上喟然而稱曰、「朕甚閔焉」。於是建藏書之策、置寫書之官、下及諸子傳說、皆充秘府。

至成帝時、以書頗散亡、使謁者陳農求遺書於天下。詔光祿大夫劉向校經傳諸子詩賦、步兵校尉任宏校兵書、太史令尹咸校數術、侍醫李柱國校方技。每一書已、向輒條其篇目、撮其指意、錄而奏之。會向卒、哀帝復使向子侍中奉車都尉歆卒父業。歆於是總群書而奏其七略、故有輯略、有六藝略、有諸子略、有詩賦略、有兵書略、有術數略、有方技略。今刪其要、以備篇籍。

# 33 『隋書』 經籍志

顯慶元（656）年

四部分類

經・史・子・集

道經・仙經

222.01  
N73  
228  
W

隋書卷三十二

唐太尉揚州都督監修國史上柱國趙國公臣長孫無忌等撰

志第二十七

經籍一經

夫經籍也者機神之妙旨聖哲之能事所以經天地緯陰陽正紀綱弘道德顯仁足以利物藏用足以獨善學之者將殖焉不學者將落焉大業崇之則成欽明之德匹夫克念則有王公之重其王者之所以樹風聲流顯號美教化移風俗何莫由乎斯道故曰其爲人也溫柔敦厚詩教也疏通知遠書教也廣博易良樂教也絜靜

乾隆四年校刊

隋書卷三十二 經籍志

83022828

## 四部への道 『隋書』経籍志・大序

魏秘書郎鄭默、始制中經、秘書監荀勗（じゅんきよく、？－289）、又因中經、更著新簿、分為四部、総括群書。

一曰甲部、紀六藝及小学等書。 <六藝略>

二曰乙部、有古諸子家・近世子家・  
兵書・兵家・術数。 <諸子略・兵書略・術数略・方技略>

三曰丙部、有史記・旧事・皇覧簿・雜事。 なし

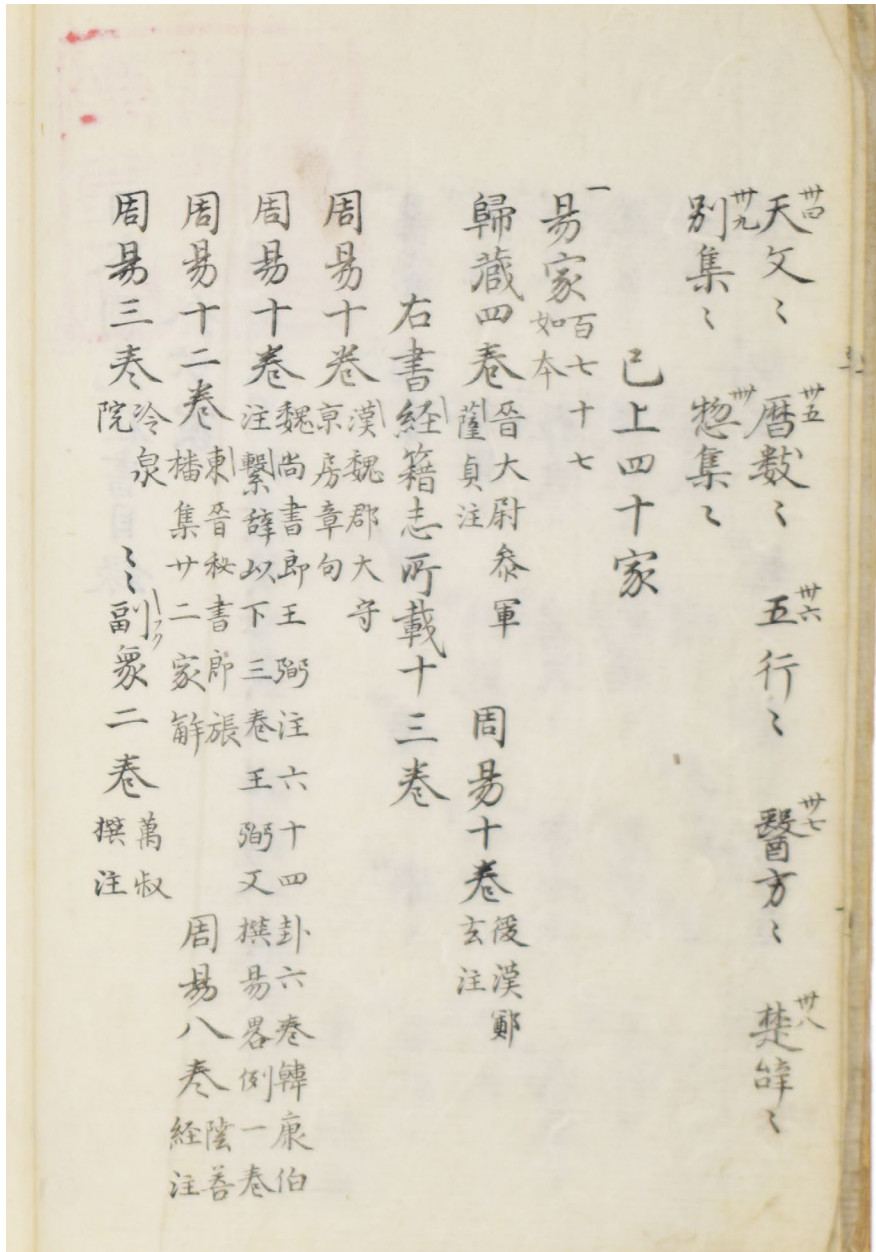
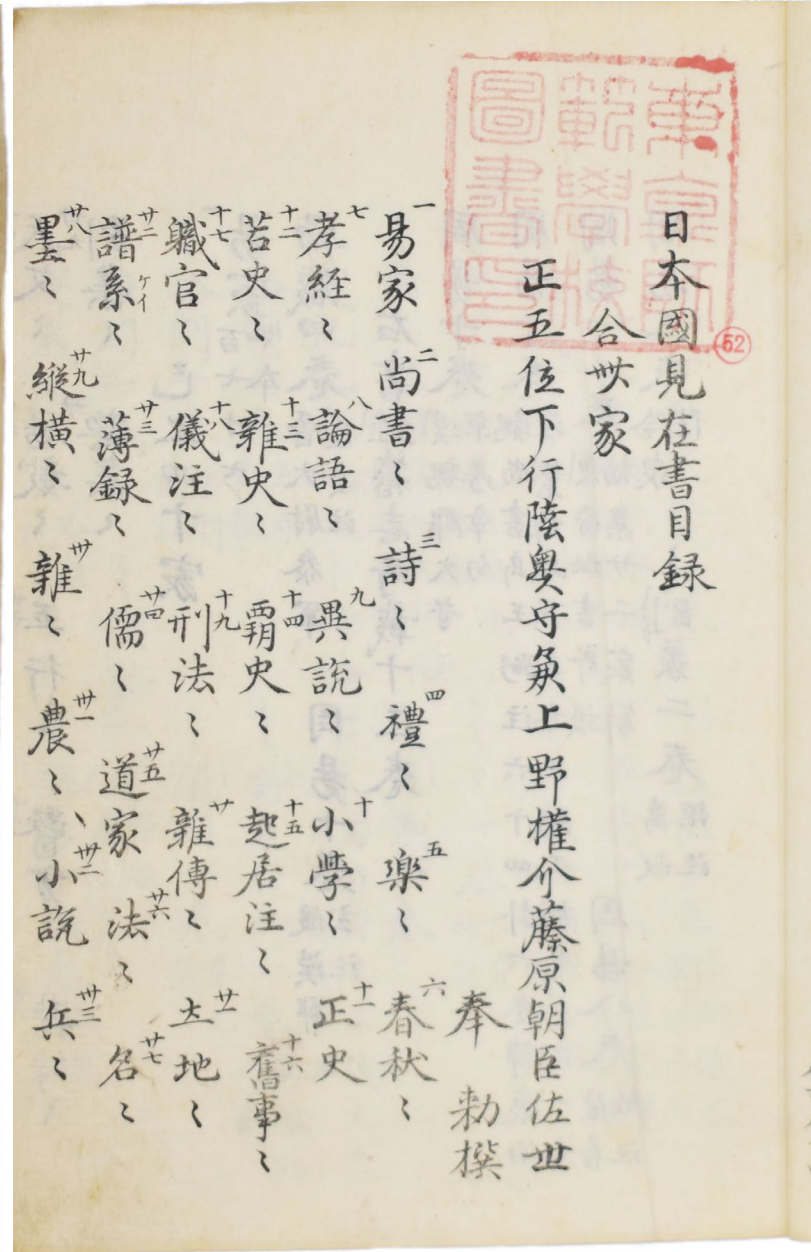
四曰丁部、有詩賦・凶讚・汲冢書。 <詩賦略>

経 = 甲      史 = 丙      子 = 乙      集 = 丁

夫仁義礼智、所以治國也、方技数術、所以治身也。諸子為経籍之鼓吹、文章乃政化之黼黻（ふふつ）、皆為治之具也。

四部分類 日本での継受

34 『日本国見在書目録』  
(藤原佐世、891年?)





## 井波陵一『知の座標—中国目録学—』白帝社、2003年

一つの目録において、なぜその書物がある場所に存在するか説明する、あるいは理解することにほかなりません。その場所にその書物を存在せしめる—それが根本原理としての分類法だと言えるでしょう。その時代の知的営みを図書分類として凝縮したもの、すなわち知の座標としての目録を取り上げた時、目録学ははじめてその意義を明らかにすることになるわけです。

### 三、本を蒐める

経籍訪古志（『国史大辞典』）

本邦伝存漢籍の古写本・古版本を解説した書。六巻、補一卷。補は医書で、医書以外を本文とし、四部各類に分けている。安政三年（一八五六）海保元備（漁村）の序がある。伝本には渋江全善（かねよし、抽斎）・森立之（枳園）の兩名を編者としているが、実は、狩谷望之（掖斎）在世時代から開催されていた古書鑑賞会の諸家の筆録を、この仲間の中で最も最後まで生存した立之がまとめたもので、全善は全く名のみらしい。各書については、書名・巻数の下にテキストをあげ、所蔵者名を記し、諸家未見で、伝聞によるものは「未見」と注し、説明は序跋の有無、巻頭の体裁、蔵書印・奥書などを漢字のみで詳しく記しているが、ほとんど内容に触れていないのが欠点である。しかも、立之は漢文に自信がなかったため、彼に添削を求められた海保元備が、奥書の文章をも改削したので、この点で日本書誌学会で影印した初稿本の価値が認められる。流布本は、明治になって、中国六合の徐氏が活版に付したものと、中華民国になって、これを上海の広益書局が翻印したもののほか、立之の子約之の書入本を翻印した国書刊行会の『解題叢書』所収本とである。

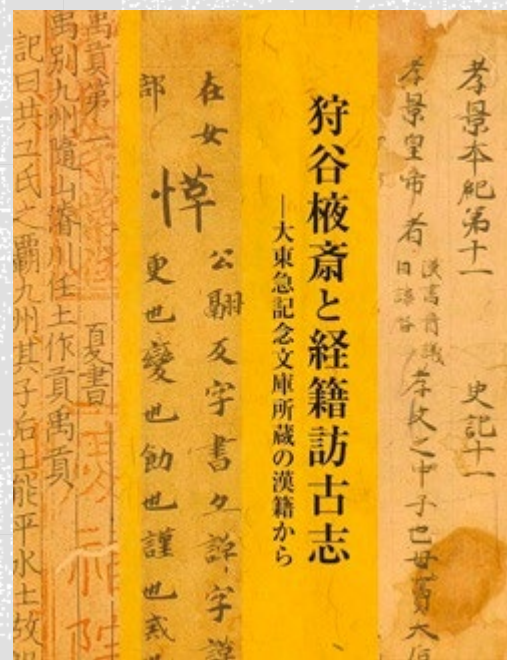
[参考文献]

長澤規矩也「経籍訪古志考」（『長澤規矩也著作集』二所収）

（長澤 規矩也）

# 42 『経籍訪古志』

## 10 『孝経』 原書の解題



大東急記念文庫、2019年



『經籍訪古志』  
大阪大学附属図書館蔵、  
石濱文庫

19 『論語集解』原書の解題

經籍訪古志 卷二 十六  
應永九年八月廿二日天台住侶兼英記及醫  
王丸題名每卷末有鹽穴寺鹽穴寺在泉州堺  
新在家町出泉州志和名鈔云和泉國大鳥郡  
鹽穴之保乃阿奈是也今呼之爲波奈

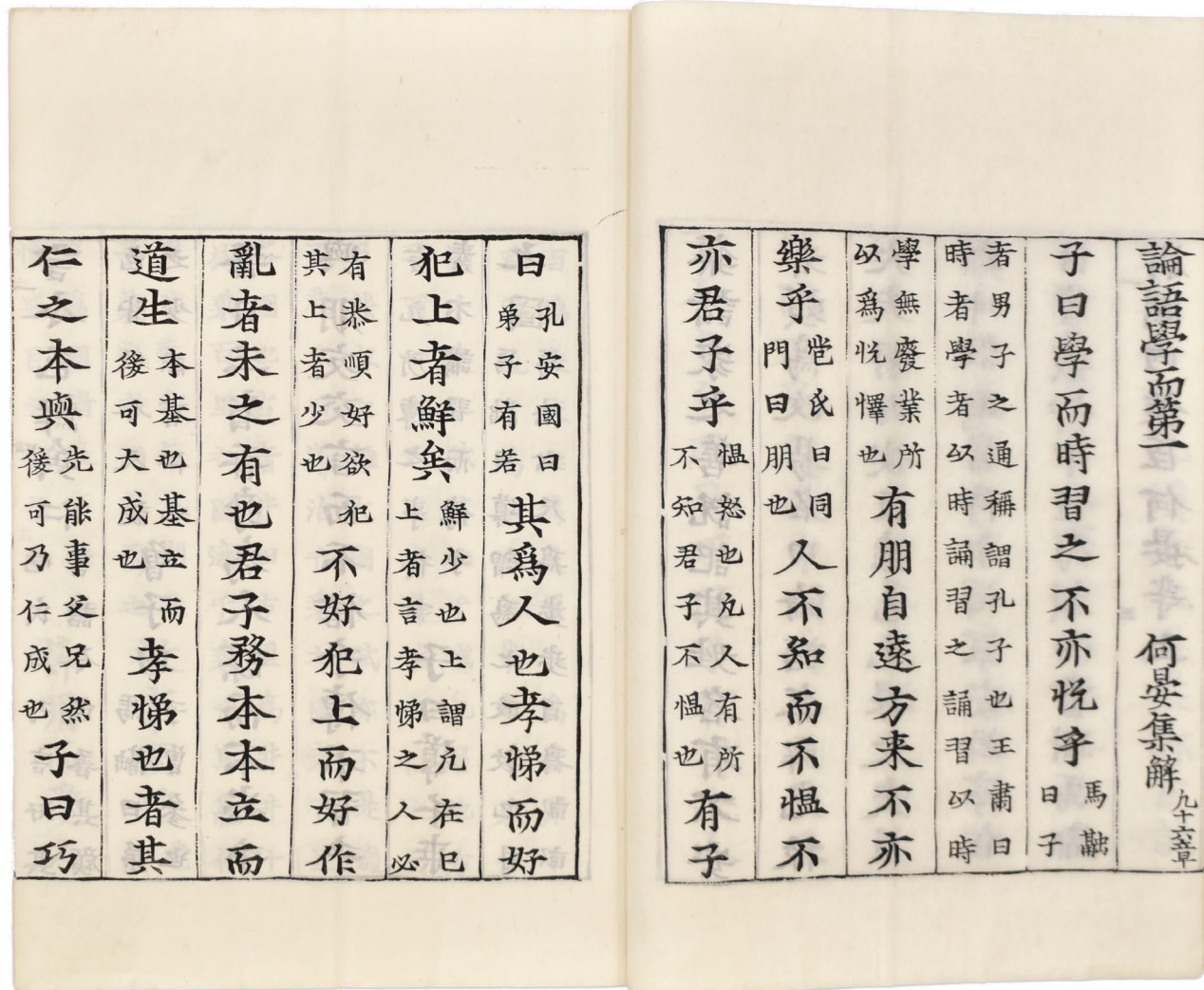
又 正平甲辰刻本

跋云堺浦道祐居士重新命工鏤梓正平甲辰  
五月吉日謹誌攷道祐者足利左馬頭義氏朝  
臣第四子名祐氏幼哭父隨母居泉州大鳥後  
歸釋氏改名道祐爲堺浦西本願寺別院祖事  
見泉州志又有影刻此本者跋云學古神德楷  
法日下逸人貫書此本藏在屋代弘賢所又有  
一本刪去正平跋文者版今尙藏在日本橋書  
肆千鐘房又有明應板本亦摸刻此本者刪去  
正平跋文換以明應己未西周平武道敬重刊  
記

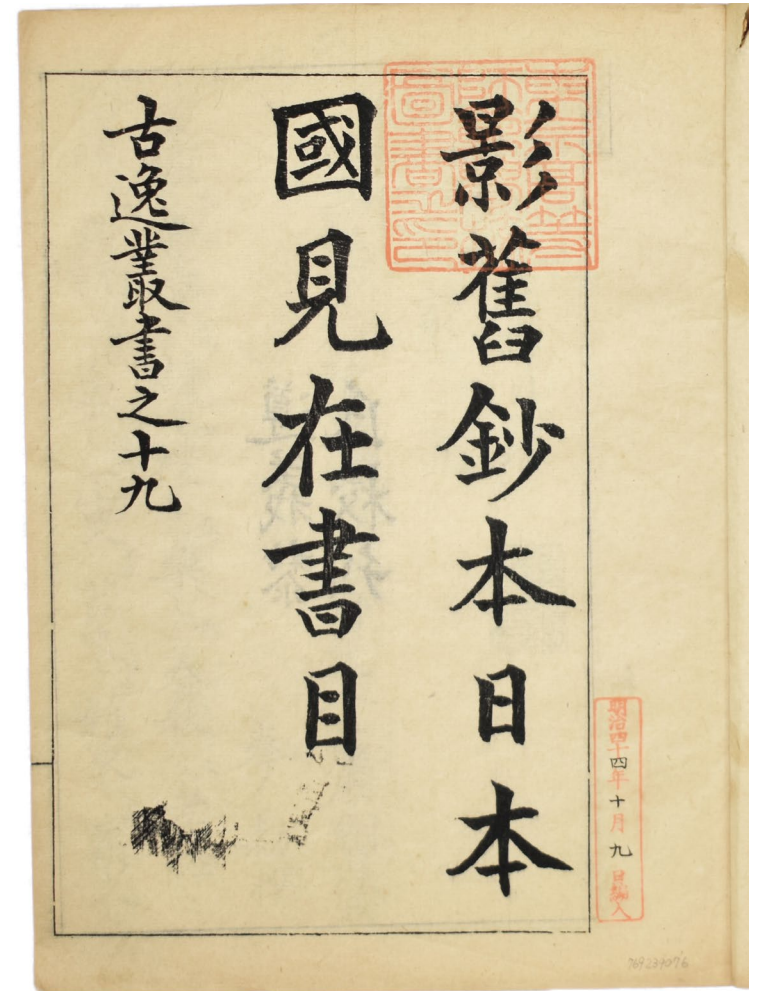
又 嘉曆三年鈔本 楓山官庫藏

嘉曆二年釋禪澄在加州白山八幡院玉泉坊  
所鈔識語散見各卷又有仁治弘長正安延慶  
間明經博士清原氏舊跋知取原於清氏傳本  
第九卷末記嘉曆三年九月十八日於燈下亥

楊守敬『古逸叢書』（光緒10（1884）年）



19 『論語集解』



35 『日本國見在書目録』

## 鄰蘇觀海—院藏楊守敬圖書特展



簡介

詳細資訊

楊守敬，字惺吾，晚號鄰蘇老人，湖北宜都人。鄰蘇園與觀海堂為楊守敬前後兩座藏書樓堂號。本次展覽將區分「其人其藝」、「東瀛訪書」、「靜觀寰宇」、「圖書流傳」四單元，讀者可藉此瞭解楊氏對漢籍蒐藏及保存民族文化的奉獻與心血。

# 故宮博物院特別展 「鄰蘇觀海」 2014年

## 『尊経閣叢刊』（『国史大辞典』）

古典籍の影印版の叢書。育徳財団（のち改称して侯爵前田家育徳財団、さらに財団法人前田育徳会となる）が、**前田家尊経閣文庫**架蔵の典籍の中から重要なものを選んで影印（活字翻刻版の付いた例もある）、解説を付して、刊行・頒布したもの。前田家では明治時代にも所蔵の典籍・文書を影印・翻刻して頒布したことがあり（『享禄本類聚三代格』『仁和寺御室御物実録』『遼東志』など）、前田利為は貴重な蔵書を複製して世に弘め、一つには不慮の災害による滅失に備えようと考えていたが、関東大震災によってさらにその思いを深くし、育徳財団を設立（大正十五年（一九二六）二月二十六日認可）して、複製刊行などにあたらしめ、「尊経閣叢刊」と名づけた。同年六月、『古語拾遺』『色葉字類抄』を刊行したのをはじめとして、昭和十八年（一九四三）十月出版の『入道右大臣集』『玉燭宝典』に至るまで毎年刊行・頒布を続けたが、太平洋戦争の激化により一時中断、戦後復活して『列子張注』『金剛童子法』を刊行したが、同二十七年四月『建治三年記』の出版を最後に中絶した。総計して六十四次にわたり、六十七部（和書五十六部、漢籍十部、韓書一部）の典籍が複製された。**印刷は原本の状態などによって精疎に若干の差があるが、多色刷りで、料紙・造本も原形を模した精巧なものが多い**（『荏柄天神縁起』『十五番歌合』『宝積経要品』『恵慶集』など）。

### [参考文献]

尊経閣文庫「尊経閣叢刊略解題」（『文献』五）

（飯田 瑞穂）

# 『尊経閣叢刊』

日記といふは  
 をしるすことのみしるす  
 事やそれのしるすは教の  
 不ぼやむとすの日のぬれ  
 かと教のしるすは  
 下かまはくある人あり  
 分はせとせしむるは  
 みふしをへしけしむる  
 さらしむるは舟よる

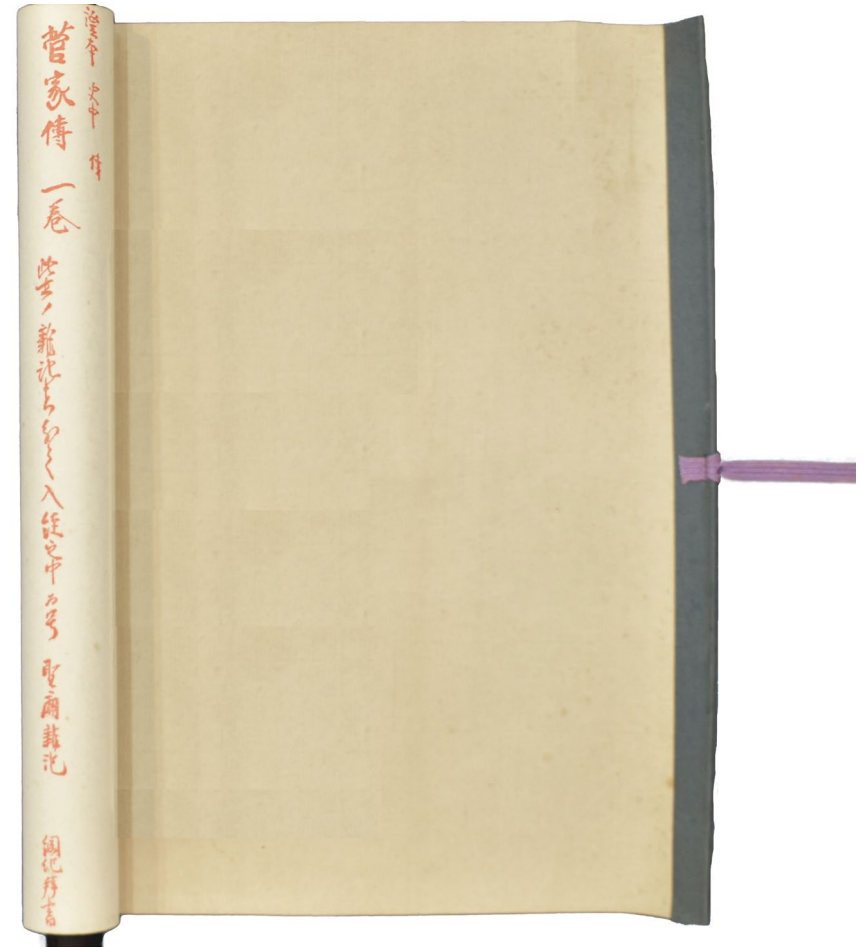
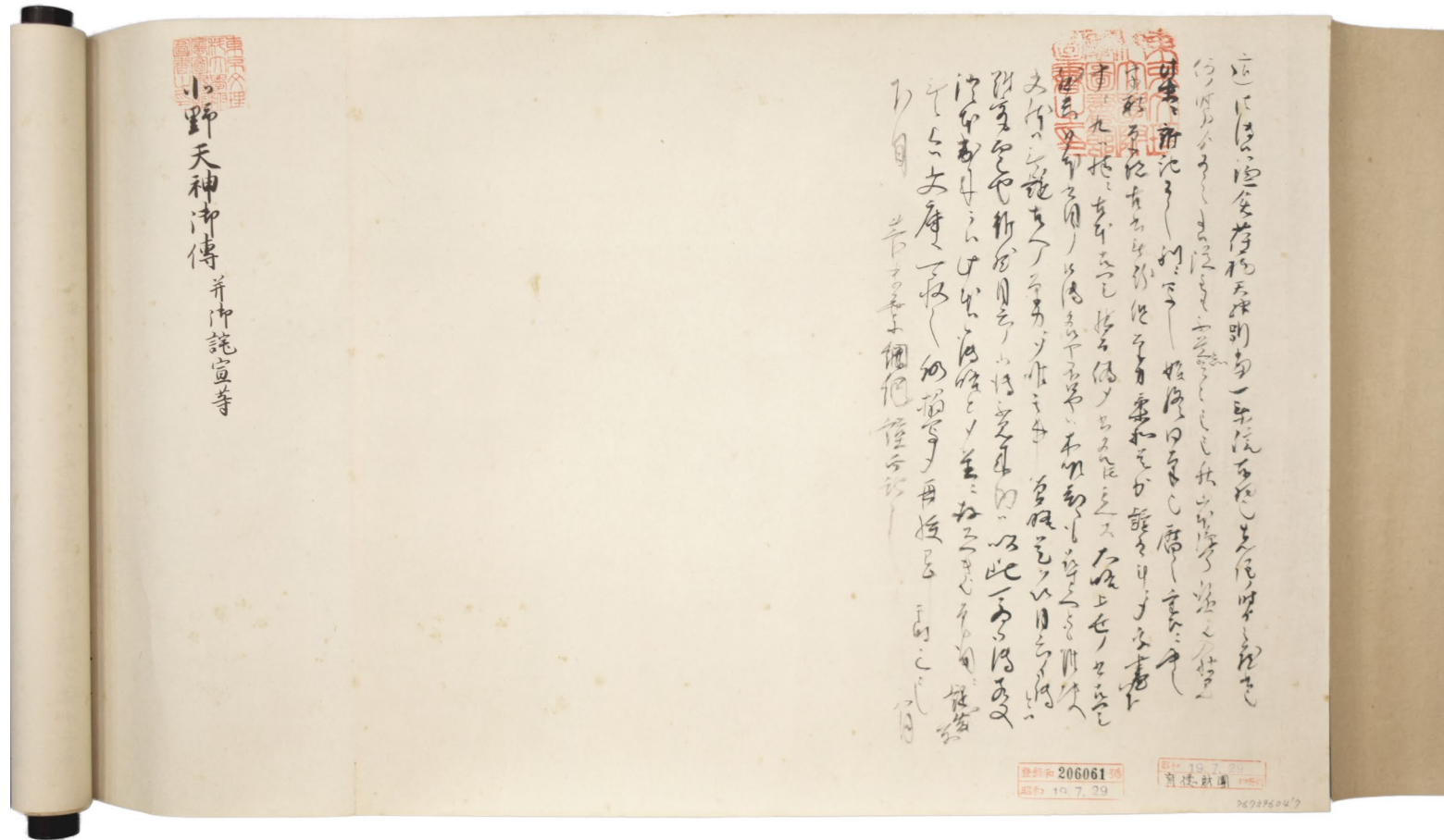
9 『土左日記』

類聚国史卷第六十五  
 祥瑞部上  
 日 月 星 雲 瓦  
 露 雪 鷄 山鷄 鳩  
 鷹 鷹 鷓鴣 鳥 鷲  
 雀 鳩 鷓鴣 鷓鴣 茅鷄  
 至鳥 木寇 鷓鴣 鳥  
 日  
 元正天皇養老五年二月癸巳日暈如白  
 虹貫暉南北有珎  
 嵯峨天皇弘仁二年閏十二月己亥日花襲

37 『類聚国史』



# 『菅家伝』 (『尊経閣叢刊』)



# 前田綱紀（松雲公）の識語

証本 史中 伝

菅家伝 一卷

此末ノ雜記者分之入経之中而号聖廟雜記 綱紀拝書

這御伝ハ鎌倉荏柄天神別当一乘院所持也、先住ノ時分之蔵書也、何ノ時分ヨリ有之事ハ院主も不覚知之也、己巳（\*元禄2（1689）年）秋山本孫八郎取ニテ入披見此末ニ雜記有之、別ニ写之始終同筆也、曆之裏（\*承久2（1220）年具注曆紙背）ニ書之、字形筆跡古書無粉、但筆力柔和、是少疑有斗ニシテ、字画以下十二九ハ慥ニ古本ナルヘシ、指而偽シテ書タルトモミヘス、大略上世ノ書ナルヘシ、然者日本書目ノ御伝（\*本朝書籍目録・人々伝・菅家一卷）タルヤ否ヤハ木順老（\*木下順庵）ヘモ尋候ヘとも難決、体ハ無疑古人ノ筆カニシテ、唯其事簡略、是ヲ以目六ノ御伝とハ難究而已也、雖然目六ノ御伝不見来内ハ以此可為御伝、若又証本出来ニハ此本ハ御伝略とシテ並ニ存スヘキ歟、兎角ニ疑敷所無之上ハ文庫ヘ可収之、仍搦寫シテ再校畢于時己巳八月下旬 菅末葉綱紀而記之